

令和6年11月26日
(2024年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第二小学校

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語〈概要〉

「書くこと」の領域は全国値をやや下回っています。「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域においては全国値を下回っています。

＜国語における課題点＞

物語文から人物像や全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできるかどうかを見る問題では、記述式でしたが、概ねできていました。しかし、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題においては、課題が残りました。言葉の特徴や使い方に関する事項(主語・述語・漢字)は全国値を大きく下回り、特に文脈に合わせた漢字を書くことについては、無答率も高く、課題が残りました。

【改善方策について】

- 授業の中で、互いの考えを比べたり、友だちの意見を参考に自分の考えをまとめたりする主体的・対話的な深い学びを意識し、交流を大切にする授業づくりをめざします。
- 漢字の学習では、文字を覚えるだけでなく、意味を理解し、日ごろから言葉や文章の中で正しく使えるように指導法を工夫します。
- 図書館や学級文庫などの読書環境の維持・改善を図り、文学作品だけでなく様々な形式の文章を読む機会を増やすことで語彙を増やし、自力で文章を読み解く力をつけていきます。
- 長い文章を読み取って設問に答えることが苦手な児童が多いことから、日々の授業の中で、しっかり読み、問題に取り組んでいく基礎的な学習も継続して取り組んでいきます。
- 子どもたちが主体的に取り組む活動を計画的に取り入れ、自力で文章を読み解く力をつけていくとともに、得た知識を活用して発信していく力を育てていきます。

●算数《概要》

各領域「図形」「データの活用」で全国値と比べてやや下回っています。「変化と関係」「数と計算」は下回っています。

<算数における課題点>

「五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く」問題では、全国平均よりも正答率が上回っており、実際に具体物や立体に触れることで効果的な学習ができていると考えられます。問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことや、計算の仕方を考察し、求め方と答えを言葉を用いて記述できるかを問われるような内容については、課題があります。また、「数と計算」の分野では正答率が低く、基礎的な四則計算での誤答が多くみられました。

後半の問題ほど無答率が高く、特に記述式の問題での無答率が高くなる傾向があります。さらに、情報量の多い問題や条件を整理して解くことに課題がみられました。

【改善方策について】

- 基礎基本の定着に引き続き取り組みます。プリントなどで反復学習を行っていきませんが、計算に苦手意識の高い児童には、タブレットで百マス計算を行うなどの手立てを行います。
- 教科書の中で算数の学習が終始するのではなく、生活に根ざした興味・関心のある論述型の問題にも、多く触れる機会をもち、数学的思考方を伸ばしていけるよう授業改善を進めます。
- 条件や情報を解釈し、数学的に表現し、問題を解決するための判断力を高められるよう、判断の理由を授業において説明する機会を設け、設問に求められる条件や情報を見つける機会を積極的に設けます。
- 問題文を読み取る力をつけるため、問題をイメージ化する学習を日常の授業で大切にしていきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学校生活・自分自身のことについて】

多くの質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。しかし、「あてはまらない」と回答した割合も多く、今年度も二極化傾向という課題が残りました。また、「学校に行くのは楽しい」質問においては「当てはまらない」と回答した割合が多く、「幸福感を感じている」質問においては、「どちらかという当てはまらない」と回答した児童が多くいました。どこに原因があるのか、児童が今何を望んでいるのか考えていく必要があります。まずは、児童が頑張っていることに対し、学校はもっと積極的に声をかけいく必要があると真摯に受けとめています。学校における学習や活動を充実させ、学校生活が楽しいと感じられるような取り組みを考えてまいります。また、児童の悩みや思いを話しやすくするために、今後さらに、担任だけでなく色々な教師が関わっていくように努めます。

全国値を上回っているもの

「自分によいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていると思える」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」「人の役に立つ人間になりたい」

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」

全国値とほぼ同じもの

「いじめはどんな理由があってもいけない」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」

全国値を下回っているもの

「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか」

【学習状況】

多くの質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。特に授業でタブレットなど ICT 機器の使用頻度が、全国と比較して非常に高く、勉強の役に立っていると感じている児童が多いことが推察されます。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」と回答した児童は全国値を上回っているものの、「どちらかという当てはまらない」と回答した児童の割合も高く、二極化の傾向が顕著にみられました。この学習が、今後どのようにつながるのか、どうして必要なのか、どんなねらいがあるのかを児童にしっかりと伝える必要があるととらえています。話し合い活動や自分の取り組むべき課題は把握しているが、自分の苦手なことをそのままにしている、どうしていいかわからない児童がいることが調査から見受けられることから、教師からの声かけや支援で、少しずつでも取り組む姿勢を身につけさせることが必要ととらえています。

【家庭生活・地域・社会について】

ほぼすべての質問において、肯定的な回答の割合が全国値と同じか、上回っています。「朝食を毎日食べていますか」は肯定的な回答の割合が全国値とほぼ同じですが、「あてはまらない(朝食を全く食べていない)」と回答した児童の割合は全国値より高い割合になっています。「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の肯定的な回答は、全国値を上回っており、生活リズムが整っていることがわかります。しかし、「1日あたりのテレビゲームをする時間が4時間以上」と答える児童の割合が一番大きく、SNS や動画視聴の時間も全国よりも多い結果が見られました。「スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の項目では、きちんと守っていると答えた児童は全国と変わりなく、「守っていない」と回答した児童はいませんでした。しかし、「あまり守っていない」と答える児童は全国よりも多かったです。

【家庭学習について】

「平日、学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間」が、2時間以上の児童の割合は全国に比べて高い値ですが、「全くしない」児童の割合も、全国に比べて高くなっています。また、「学校が休みの日に、勉強時間が1時間より少ない」「全くしない」児童の割合が、全国と比べて大幅に高いことから、二極化の傾向がうかがえます。

「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)」質問では、「0～10冊」の割合が全国と比べて、非常に高くなっています

【教科の学習について】

国語

「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「将来役に立つと思いますか」の肯定的な回答は全国値を下回っています。「授業の内容はよく分かりますか」は肯定的な回答が全国値とほぼ同じです。その他すべての項目において「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童が多くいました。

算数

「算数の勉強は好きですか」の肯定的な回答は、全国値とほぼ同じですが、「当てはまらない」と回答した児童が多くみられました。「算数の授業で学習したことを、普段の生活に活用できないか考えますか」の質問は、肯定的・否定的な割合は、全国値とほぼ同じでした。しかし、「算数の授業の内容はよく分かりますか」「大切だと思いますか」「将来社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の問題がわからないときは、あきらめずに考えますか」等、その他の項目においては、肯定的な回答が全国値を下回っています。

英語

「英語の勉強は好きですか」「英語の授業の内容はよく分かりますか」は、肯定的な回答が全国値をやや下回っています。「英語の勉強は大切だと思いますか」の肯定的な回答は、大きく下回っています。英語学習の必要性、特に将来の職業に英語がどれほど必要になってくるかを、実感できるように、キャリア教育とからめて学ばせていくことが大切と考えています。

3 今後の取り組み

「今回の国語・算数の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の項目では、両教科とも「書く問題は全く解答しなかった」と答えた児童はいませんが、「途中であきらめた」と回答した児童の割合が高くなっています。両教科とも解答時間は十分と答えた児童が多く、実際に無回答率は高くないことから、「やっている」「できている」と肯定的にとらえている子どもの姿があります。日頃の授業において、「わかったことと、わからなかったことは何なのか」を理解することで、「きちんとわかる」につながり、長く残る本物の知識をなるものだと思います。「できた・わかった」という体験を積み上げることで、学習の楽しさを学んでいけるよう、授業改善に取り組んでまいります。

本年度の研究テーマは、『自分の考えを表現し、意見交流を通して、見方を広げる力をつける』とし、取り組みを進めています。今後も自分の思いを言葉で表現できるように、語彙力をつけるための読書や辞書の活用を意識して取り入れてまいります。また、授業の中で他の児童と交流する場面を多く持ち、その中で自分の考えを伝えたり書いたりするなど表現できる学習を大切にしていきます。

学校は考えがちがう人たちが集まる小さな社会です。いろいろな考えがあるのですから、どうしても意見が合わないことも出てきます。けれども、話し合いを経て、仲間と一緒に何かを達成できた時の気持ちは格別です。まさに学校は「学びの宝庫」とも言えます。いろいろな出会いをチャンスととらえ、互いに認め合うことで、安心・安全でみんなが楽しい学校になることを繰り返し子どもたちに伝え、どの子にとっても「安心・安全」な学校になるよう取り組んでまいります。